

# 読み聞かせ

令和6年4月26日(金)



発行所  
常磐南小学校  
電話 46-2005  
FAX 46-2048  
— 第46号 —  
2024.5.23

## 本の世界に親しむ

校長 林 幸康

今年度も、ボランティアの皆さんによる読み聞かせが始まっています。「読み聞かせ」の時間における子どもたちの眼差しは、驚くほど真剣です。子どもたちは本の世界にすっかり引き込まれているのです。

先日、雨の日の昼放課に、図書室の様子を見に行きました。外に遊びに行けないこともあって、多くの子が図書室に来ていました。しばらくして、昼休みの終了を告げる鳥のさえずりが聞こえると、子どもたちはすぐに本を元に戻し、各自の教室に足早に向かつていきました。みんなはじめがついていけないなあ、と感心していると、一人ぼつんと座って本を読み続けている子がいました。「おっ、時間だよ！」と、声をかけても返事をしません。もう一度声をかけても反応がありません。心配になり、横まで行って声をかけると、その子はびっくりした様子を見せ、周りに誰もいないことにやっと気がつきました。それくらい本に集中し、その世界に没頭していたのです。

こういった本の世界に没頭する体験を、より多くの子に味わわせたいものです。全国学校図書館協議会の調査によれば、二〇二三年五月の一月間の平均読書冊数は、小学生一二・六冊、中学生五・五冊、高校生一・五冊とのこと。一方、この間に読んだ本が〇冊の子どもの割合は、小学生七・〇%、中学生一二・一%、高校生四三・五%となっています。学年が高くなるほど、読書をしていない傾向があることが分かります。冊数についてこだわる必要はないと思います。しかしながら、読書は豊かな感性と考える力を育み、人生をより深く、そして、豊かに生きていくために欠かせないものです。また、学力の向上という教育的効果があるとも言われています。

本校の朝の読書の時間は、読み聞かせボランティアの皆さんのお力添えもあり、充実した時間となっています。これからも、常南っ子が、様々な本の世界を楽しみ、本を読む習慣を身につけられるよう取り組んでいきたいと思っております。

## 五・六年自然薯の植え付け

すてきなせんばい

五年

私が、スコップで土をたがやしているとき、  
「たがやしたから、この土を使っていいよ。」

と、六年生が言ってくれたので、とてもうれしくなりました。自然薯の植え付けは、六年生が優しく声をかけてくれたり、作業を手伝ってくれたのでとても楽しかったです。  
来年は、私たちがこの活動を引っ張っていきます。困っている子がいたら優しく声をかけ、助けてあげられるような六年生になりたいです。



【自然薯の穴掘り】

みんなの努力

五年

六年生が〇〇さんの畑に行つて、パイプに赤土を入れてきてくれました。ぼくたちは、そのパイプを学校の畑にうめる作業を協力して行いました。

次に五、六年生で自然薯の作業をするのは、しゅうかくのときなので、全校で食べられるくらい大きく育っているとうれしいです。

六年生や〇〇さん、〇〇先生がたくさん準備をしてくれましたので、自然薯の植え付けができました。感じや気持ちでいっぱいです。

自然薯ができるまで

五年

種いもを植えるとき、種いもが折れないように気をつけながら、作業をしたことがとても大変でした。他にも、ひりようをまいたり、土をかぶせたりする作業がありました。全て終わったところには、すごくつかれていました。つかれたけれど、自然薯がたくさんできるところを想像すると、楽しく取り組めました。

毎年食べているとろろご飯を作るのに、ものすごく大変なことをやってくれていたと分かりました。おいしい自然薯が育つてほしいです。

最後の自然薯植え付け

六年

自然薯の植え付け準備で、初めてパイプに赤土を入れました。赤土は、スコップで入れると思っていたけれど、赤土の山にパイプを差し込んで入れることが分かり、びっくりしました。赤土の山に差し入れたパイプを抜くときは、少し重かったけれど、上手にできました。

植え付けは、〇〇さんや〇〇先生がいてねいに教えてくださったおかげで、順調にできました。これからも感謝の気持ちをもって、自然薯の生長を見ていきたいです。



【パイプに赤土を入れる6年生】

自然薯の作業を終えて

六年

自然薯の植え付けで印象に残っているのは、赤土の作業です。六年生になり、初めてパイプの中に赤土を入れました。パイプの口から赤土が出

ないように、手でしっかり押さえました。パイプを通つて、赤土がのひらに落ちてくる感覚が楽しかったです。赤土がいつぱいに入ったパイプは、意外と重かったです。

土を耕したり運んだり、自然薯の植え付け作業はものすごくつかれたけれど楽しくできました。今後の生長が楽しみです。

受け継ぎたい自然薯栽培

六年

今年は、五年生のときとはちがいで、自然薯を植え付けるための穴ほりから準備を進めました。

赤土をパイプにつめる作業も、とても大変でした。赤土のつまったパイプをうめるのは、とても重たかったです。みんなで協力してきれいに植え付けることができました。野村さんにも手伝っていただき、今年も無事に植え付けができたと思います。次の学年に引き継げるよう、今年も大切に育てたいです。



【種芋の植え付けをする5年生】

## 一年生を迎える会

みんなが楽しめる会に

六年

一年生を迎える会に向けて、級長会を何度も開き、準備を進めてきました。全校のみんなが楽しめる会にしたいという思いから、一年生にも分かりやすいゲームを企画しました。級長会だけでなく、六年生みんなにも考えてもらい、当日を迎えました。一番楽しかったのは、進化じゃんけんです。五回勝つと神様になれるので、常南が神様だらけになりました。一年生が楽しそうにゲームをしていて、ぼくもうれしくなりました。これからも、学校が楽しいと思ってもらえるよう、一年生とたくさん遊びたいです。



【1年生入場】



【メダルのプレゼント】

かみになった「しんかじゃんけん」

一年

いちねんせいをむかえるかいで、じゃんけんをしました。わたしは、じゃんけんにとくさんかって、いちねんえのしんかの「かみ」になれて、うれしかったです。

おもいでをめだる

一年

いちねんせいをむかえるかいで、ろくねんせいからめだるをもらいました。くびにかけてもらったとき、とてもうれしかったです。おもいでがつまっためだるになりました。



【1年生ヘインタビュー】

## 二年 一年生となかよし会

たのしかった なかよし会

二年

一年生となかよし会をしました。さいしょは、みんなの前で、会のしきいやゲームのせつめいが上手にできるかしんばいで、きんちようしていただきました。だけど、一年生とたのしくあそべるので、うきうきするきもちもありました。

なかよし会では、ゲームと学校たんけんをしました。ゲームでは、一年生みんながたのしそうにしてくれて、とてもうれしいきもちになりました。学校たんけんでは、学校のいろいろなばしよやルールをおしえました。これから一年生がこまっていたら、やさしくたすけたいです。



【2年生と「なべなべそこぬけ」で遊ぶ1年生】

## 三年 カブトムシの幼虫



【カブトムシの幼虫を探す3年生】

楽しいカブトムシの

よう虫かんさつ

三年

総合の授業で、カブトムシのよう虫を育てています。先生からカブトムシのよう虫を育てることを聞いたとき、すごくうれしかったです。毎日、わすれずにかんさつをしていくと、カブトムシのよう虫が少しずつ大きくなっていくのが分かります。だから、とても楽しいです。早くきなぎになって、りっぱなカブトムシになってほしいです。そのために、これからも大切に育てていきます。



萬里一空



PTA会長

常磐南学区に越してきて十三年。山には緑が溢れ、夜になると月や星を美しく眺められるこの町が、私は大好きです。そんな自然と共に暮らす町民の方々は、老若男女問わず活気に満ち、心優しい。そして、やる気は一致団結し、大きな力を発揮できる。そんな人柄だと思います。

ときなん卒業生で中学、高校に通う子どもたちが、今でも気さくに話してくれます。在校時のように小学生の面倒も見てくれます。これは、一重に地域一体となり、先生方と協力して教育を続けてくださった先輩方の努力の賜物です。引き継がれてきた想いをより良いカタチで、次年度に繋ぐ。それは、子どもたちの未来に繋がり、またその子どもたちへと繋がっていく。そんな願いを「萬里一空」に込め、活動を進めて参ります。現在のときなんを取り巻く環境は、コロナを引き金に、核家族化や先生方の高負荷低減など、地域一体での動きが難しくなってきた状況です。本年度は、学校行事、地域行事の情報展開で、PTA活動を身近に感じていただき、参加しやすい風土づくり、家庭における教育のきつ

けづくりに努めていきます。皆様方のご意見なども気軽に御寄せください。みんなでときなんを盛り上げていきましょう。

【令和6年度PTA役員の皆様】



会長

副会長

家庭教育委員

### 福寿会奉仕作業

五月十八日(土)、福寿会の皆様による奉仕作業が行われました。運動場や校舎周辺の草刈り、樹木の剪定をしていただきました。ありがとうございました。



【福寿会奉仕作業】

### 常南の心

常南歌舞伎大阿闍梨

ふじは一組担任

江戸でたいそう評判の歌舞伎役者市之助。京での公演の帰り道、岡崎の常南村に腕の立つ仕立て職人がいるという話を小耳にはさんだ。寄り道をして、その義助という男に会ってみた。愛想がなく「へい」としか言わない。しかし、どうにも気になって江戸に連れ帰った。

市之助は楽屋に義助を呼んで、西陣織の反物を見せた。これで「春の舞」に使う打掛を仕立てるように言うと、義助は「へい」と言っ立ち去ろうとした。寸法も取らずに仕立てるつもりかと問うと、義助は旅の間ずっと見ていたので大丈夫だという。市之助は義助のそぶりがなんとも腹立たしかった。市之助は仕上がった打掛を羽織り、舞の一節を踊ってみた。すると、体に衝撃が走った。「なんとという着心地の良さだ。」

市之助は、春の舞の途中で舞台に突っ伏し、楽屋に引き上げたまま姿を消した。二十数年後、仏門に身を投じた市之助は大阿闍梨まで上り詰めた。江戸での務めに区切りをつけて、この常南村の小さなお寺の住職となった。傍らで身の回りの世話をするのは義助だった。「義助どん、きれいな夕焼けだねえ」「へい」

(平成二十八年学芸会より) わたしは、この常南で多くの義助さんにお会いすることができました。

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土
		読み聞かせ ナナメの教室6限	全校遊び			児童集会 委員会		読み聞かせ				歯科検診 第一回評議員会	児童集会 クラブ プール開き		読み聞かせ 尿検査二次	体力テスト予備日	学校公開 学校保健委員会	学校公開 体力テスト	児童集会 委員会 体力テスト		児童集会 委員会		第一回社教委員会	5年10時登校	5年山の学習 プール掃除予備日	5年山の学習 プール掃除	月曜集会 クラブ		

